

第 91 回歴史探訪の会 「大大阪の基礎を築いた大阪の偉人とその足跡を訪ねる」

実施日： 2024 年 1 月 17 日(水曜)

場 所： 大阪市中央区

案内者： 内海春樹

穏やかな小春日和に恵まれた一日、28 名の参加者が馴染み深い所を改めて巡りました。大阪の中央区は飛鳥時代の難波の宮から近世の大坂城築城を経て今日に至る長い歴史を持った上に新しい時代を開く“まち”として整備されてきました。江戸時代の“天下の台所”や昭和初期の“大大阪”の中心になった所でもあります。これらはここに至るまで多くの先人たちの偉業のお陰でもあります。今日は中央区の一部ですが、その足跡と重要建造物などを学びました。

コース：淀屋橋(江戸時代の豪商淀屋・民生委員の父林市蔵について説明)～日本銀行大阪支店～大阪中央図書館～中央公会堂～難波橋(ライオン橋)～大阪取引所(五代友厚像)～道修町～光林坊(昼食懇親会)～適塾～淀屋橋(解散)

1. 淀屋橋

淀屋橋は江戸時代の豪商・淀屋が米市場の利便性のために自費で架橋(木造)したのが最初で、橋名もこれに由来します。現在の橋は第 7 代大阪市長 關一(せき はじめ)による御堂筋拡幅工事の一環として、1935 年に完成した鉄筋コンクリート造りのアーチ橋です。

パリのセーヌ川を参考に景観に配慮したデザインは、一部補修された以外は当時のままで、2008 年には「大江橋及び淀屋橋」として、コンクリート橋としては珍しく重要文化財に指定されました。

大坂の豪商「淀屋」は、現代の国家予算に匹敵する 100 兆円もの資産を有したそうです。「天下の台所」の礎となった米市場を設立・運営し、多くの大名にお金を貸しました。一時は江戸幕府から取り潰しの処分を受けながらも再興を果たし、幕末には倒幕資金として朝廷側に財産を献金して自ら暖簾をおろしたとされる伝説の商家であります。淀屋橋の南西の角に「淀屋」の屋敷があった事を示すレリーフが飾られています。

そのすぐ横には立派な男性の像が建てられています。これは「民生委員の父」と呼ばれる“林市蔵大阪府知事”の銅像です。

2. 林 市蔵像

大正 7 年、第一次世界大戦後の厳しい状況のなか、国民は極めて貧しい生活でした。そのような中で救貧を目的とした「方面委員制度」が林 市蔵大阪府知事により創設されました。

方面委員の「方面」とは「地域」を表します。各委員には、それぞれが一定の区域を担当し、調査を通じて世帯状況を常に把握し、生活困窮等で支援が必要な人は迅速に救済機関につなぐという役割を担いました。昭和 21 年に全国的な組織として「民生委員制度」普及することとなり、現在においても引き継がれています。

さらに、戦後の窮乏生活のなか最も深刻な影響を受けていた子ども達を救うため、昭和 22 年には、児童福祉法が公布されました。この児童福祉法において、児童委員制度が創設され、民生委員が児童委員を兼任することとされました。



淀屋敷敷跡のレリーフ



林 市蔵象

淀屋橋を渡るとすぐ日本銀行大阪支店の立派な建物が見えてきます。

3. 日本銀行大阪支店旧館

日本銀行大阪支店の顔ともいえるのが、南北に延びる御堂筋に面し、ドーム型の屋根を持つ旧館です。旧館は、明治 36 年に建設されました。日本銀行大阪支店は、堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島に位置しています。設計は、「日本近代建築の父」と言われる辰野金吾によるものです。築後 80 年を経て老朽化と地盤沈下が進んだため、当初は取り壊される予定でしたが、「歴史的価値のある建物をぜひ残してほしい」という大阪市民や文化庁からの強い保存要請を受け、可能な限り面影を残す形で昭和 55～57 年にかけて改築工事が行われました。御堂筋側から見える東、北、南側の外壁のほか、中央のドームとその両側に配置された三角屋根は、往時の姿をとどめています。

御堂筋を渡り大阪市役所をすぎるとモダンな雰囲気の中の中之島のなかで、ひときわ目立つ建築のひとつ大阪府立中之島図書館があります。

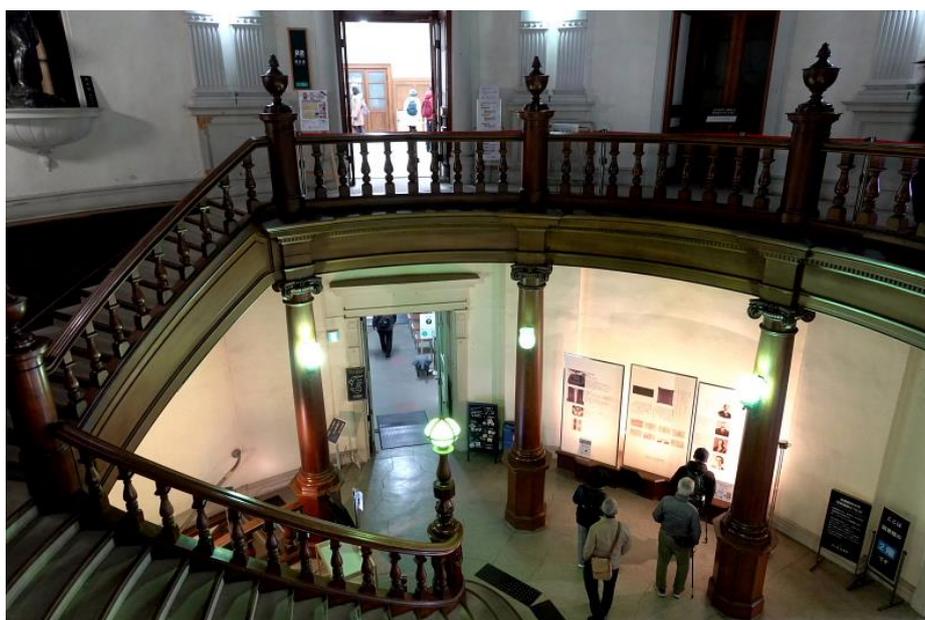
4. 大阪府立中之島図書館

明治37年完成の建物で、4本の石柱が並ぶ玄関ポーチや中央ホールにかかる大きなドームなどに特色がみられます。この図書館は住友家第十五代当主の住友吉左衛門の寄付により建てられました。明治30年、欧米への視察旅行に出かけた吉左衛門は、富豪たちが私財を投じて文化事業や社会事業に協力している姿を目のあたりにし、これが図書館を寄付するきっかけでした。明治33年、大阪府知事宛に「大阪は商工業の発展は顕著なもの教育施設の整備が遅れているのは遺憾であるので、地元大阪へ恩を返すために図書館を寄付することにした」と記されています。

1階の広いロビーからのらせん階段を上がると「記念室」があり、壁には寄付をした住友吉左衛門のレリーフ像、奈良の「鹿」京都の「牛」大阪の「安治川葦の風景」の絵が飾られている。隣の「資料室」には大坂の歴史や昔から大阪で作られていた品物(包丁、くし、着物、工芸品など)が展示されている。



図書館記念室



らせん階段

図書館の隣には大阪の人にとって馴染み深い「大阪中央公会堂」があります。

5. 大阪市中央公会堂

大阪市中央公会堂は、明治 44 年株式仲買人である岩本栄之助氏が公会堂建設費として当時の 100 万円(現在の価値で数十億円)を寄付したことにより、建てられました。

「北浜の風雲児」と呼ばれていた株式仲買人・相場師の岩本栄之助は渋沢栄一が団長となった明治 42 年の渡米実業団に参加し、アメリカ大都市の公共施設の立派さやアメリカの富豪たちによる慈善事業・寄付の習慣に強い感銘を受けました。帰国後、岩本栄之助は 100 万円を地元の公共施設建設に寄付することにしました。大阪市はこの寄付金を中之島の中心シンボルとして「中央公会堂」の建設に使われることに決めました。しかしその後岩本氏は株の大暴落で大借金を負い、周りからは市に寄付したお金をすこしでも返してもらってはと勧められましたが「男が一度出した金の返却など言えない」とし、公会堂の完成を待たずピストル自殺をしました。

ここでは今までにロシア歌劇団の公演、アルベルト・アインシュタインをはじめ、ヘレン・ケラーやガガーリンなどの歴史的人物の講演にも使用されました。中央公会堂は日本有数の公会堂建築であり、外観、内装ともに意匠の完成度が高く、日本の近代建築史上重要なものとして平成 14 年国の重要文化財に指定されました。

館内の資料室では「岩本栄之助氏の生涯」大大阪時代の建築物などの資料を見学しました。



大阪市中央公会堂前で

公会堂からは中之島公園に新しくできた美術館や児童図書館など文化施設を見ながら難波橋を渡ります。

6. 難波橋(通称 ライオン橋)

土佐堀川・中之島公園・堂島川をまたがる
堺筋に架けられている全長約 190m の橋。
橋詰の 4ヶ所に、阿(あ)と吽(うん)、それぞれ
2体の石造のライオン像が配置されていること
から、「ライオン橋」の愛称でも親しまれている。
(像の高さ 3.5メートル、18トン)

江戸時代、この橋は橋長 207m、橋幅約 5.7m
の幕府直轄の公儀橋だった。反り橋だったため、
周辺の橋や遠くの山々を眺める事ができ、橋の
上は花火見物や夕涼みの一等棧敷となるなど、
絶好の行楽地としてにぎわっていたそうだ。



難波橋のライオン像

難波橋の南東に建つレトロ建築で有名な大阪取引所(旧、大阪証券取引所)。円筒形の壮大な白亜の
外観と、ステンドグラスが美しい玄関ロビーが特徴だ。昭和 10 年に竣工。

7. 大阪取引所

江戸時代初期にその起源を遡る。江戸中期以降全国各地の諸藩は大阪に蔵屋敷を設け、年貢米を
回送・貯蔵し商人に売却したが、その中で最も有力な商人であった淀屋により米の市場が出来、堂島米
会所と呼ばれるようになる。この延長で昭和 10 年に大阪証券取引所が出来た。

2013 年に東京証券取引所と経営統合、日本取引所グループの一員となってからは、堂島の DNA を
受け継ぎ、先物・オプション取引に特化している大阪取引所。

正面の像は大阪取引所や商工会議所を設立した「五代友厚氏」



大阪取引所と五代友厚象



大阪取引所ロビーの市場表示板

堺筋を進むと道修町筋との交差点に「旧小西家住宅」が見える

8. 道修町

江戸時代に、清やオランダからの輸入薬を一手に扱う薬種問屋が店を出し、江戸幕府公認の株仲間
「薬種仲買仲間」を結成する。また、享保 7 年(1721)には日本を産地とする薬(和薬種)を検査する

和薬種改会所が設けられた。日本で商われる薬は、いったん道修町に集まり、品質と目方を保証されて全国に流通していった。その関係で現在でも製薬会社や薬品会社のオフィスが道修町通りの両側に多いことで知られている。武田薬品工業、塩野義製薬、カイゲンファーマ、小林製薬、田村薬品工業、住友ファーマ、扶桑薬品工業、田辺三菱製薬が本社を構えている。

9. 旧小西家住宅

薬問屋街の道修町に残る旧小西家住宅は、間口 10 間の格子戸をめぐらした和風建築(国の重要文化財)です。

小西家は、初代儀助(ぎすけ)が安政 3 年(1856)、京都から大阪道修町に出て薬種業・小西儀助商店(現・コニシ株式会社)を創業したことに始まる商家。現在の建物は明治 39 年につくられたもの。各部屋や茶室などには凝った意匠や工夫の跡が見られる。居住部の台所の土間には、家族、従業員ら約 50 人の食事を賄った大きなかまどがある。2 代目儀助は明治 17 年にアサヒビールの前身となる「アサヒ印ビール」を製造、このころの奉公人の中に後のサントリー創業者となる鳥井進治郎がいた。100 年を超える歳月の間、度重なる空襲と阪神淡路大震災を乗り越え、現在は合成接着剤メーカーとしてこの黒壁の館を守っている。



その後、ビジネス街の中にある日本料亭「光林坊」で新春昼食懇親会を行う。美味しい料理を頂いた後、余興として「シルバー川柳」を一人一人披露する。それぞれ思うところがあり爆笑の連続。最もみんなの人气が高かったのは、

「温かく迎えてくれるは便座だけ」



日本料理「光林坊」での昼食懇親会

懇親会が終わり最後の適塾へ向かう。

10. 適塾

適塾は、江戸時代我が国唯一の蘭学塾の遺構で蘭医学研究の第一人者とされる蘭方医 緒方洪庵が天保9年(1838)に開いた塾です。ここでは西洋医学の研究をはじめとして、種痘事業やコレラ治療など、大きな医学史上の業績が生まれました。また、適塾は幕末から明治維新にかけて、近代日本の国家形成に関与する幾多の人物を輩出しました。門下生の数は、1,000名を超えるものと推定されています。

適塾にはシーボルトやオランダ商館員も宿泊し、蘭書の取引なども行われ海外の先進文化の入り口であった長崎との文化的な距離も密接でした。このような環境下で、洪庵は当代一流の学者・医師としての業績をあげただけでなく、すぐれた教育者としても福澤諭吉・橋本左内・大村益次郎・大鳥圭介ら多くの英才を育てたのです。もちろん、維新の立役者となったような人物だけでなく、多くの塾生が適塾で学んだ後に郷里に帰って開業医となり、地域医療や種痘事業に貢献したという点においても、適塾の日本近代化における歴史的意義は大きいものです。



適塾 緒方洪庵象



阿倍野斎場に祀られた五代友厚墓

写真は津垣さんが撮影されたものを使用させていただきました。